

活動報告

2015年度 全学教育センター FD 活動報告

榎本 綾

日本福祉大学 全学教育センター

Report on Faculty Development Activities by Nihon Fukushi University  
Inter-departmental Education Center in the Academic Year 2015

Aya ENOMOTO

Inter-departmental Education Center, Nihon Fukushi University

1. 2015年度全学FD概要

全学FD活動は、全学的な教育開発課題に関する知識や情報の共有を主として、本学教職員の教育・業務遂行スタンダードの形成に資することを目的として実施してきた。2007年度に「きょうゆうサロン」と「バスツアー」を実施したことを皮切りに、2011年度からは「ランチタイムFD」、2013年度からは「ICTスキルアップ講座」と、その取り組みを拡大してきている。2015年度は、「地域および能動的学修（アクティブ・ラーニング）」を共通テーマとして、これらのFDを行うとともに、新任教員を対象とするFD・SDを実施した。各FDの日程とテーマ、参加者数を表1-1に示す。なお、一部のFDではUstream（ユーストリーム）によるインターネットリアルタイム配信を行い、当日不参加の教職員が視聴できるようにしている。

1-1. 全学FD

1) 全学FDフォーラム

全学FD活動の柱のひとつである「全学FDフォーラム」は、教育改革の推進に向けた戦略的な提言および教育技術、教育手法の開発に資する取り組みとして実施している。2014年度は外部講師を招いてアクティブ・ラー

ニングの理念と実践に関する講演を行ったが、2015年度もこのテーマを踏襲し、さらに発展する流れとなるように企画した。本学教員の取り組みの共有を目的とし、社会福祉学部の藤井博之教授と経済学部の遠藤秀紀准教授より「地域研究プロジェクト」におけるアクティブ・ラーニングの実践についてご報告いただいた。

報告を踏まえたグループディスカッションでは、ゼミやワーク形式の授業における学生の主体的学習姿勢を喚起するにあたっての工夫や困難、今後の課題について参加者同士で事例検討を行った他、チームを形成し他者と協働する力を育成するにあたり、学部を越えて共通する課題やリスク、これに対する対策など、想定されることについて意見交換を行った。

全2時間のフォーラム内での、グループディスカッションでは、問題の解決策を見出すところまでは至らなかったが、アクティブ・ラーニングを推進するにあたっての疑問や改善案が多数出された。

2) ランチタイムFD 地域と大学 「さあ、知多半島へ出かけよう！」

ランチタイムFDは、昼食時間（12：30～13：25）を活用して開催している。全学教育センターの村上徹也

表 1-1 2015 年度全学 FD 実施概要

全学 FD		
開催時期	開催テーマ	参加人数 (Ustream 視聴者数)
	講師・話題提供者	
「全学 FD フォーラム」		
2016 年 1 月 7 日	「アクティブ・ラーニングの事例研究 学生の主体的学修姿勢を引き出すには」 社会福祉学部 藤井博之 教授, 経済学部 遠藤秀紀 准教授	43 名 (11 名)
「ランチタイム FD」 地域と大学		
2015 年 7 月 2 日	「さあ, 知多半島へ出かけよう!」 全学教育センター 村上徹也 教授 社会福祉法人 美浜町社会福祉協議会 櫻井悟 氏	16 名 (11 名)
「FD サロン」 地域と大学		
2016 年 2 月 18 日	「土鍋サロン ~ DoNabeNET ~」 福祉経営学部 (通信教育) 山本 克彦 准教授 DoNabenet in あいち代表 永井杏 氏 (愛知県立大学学生)	57 名 地域関係者含む
「スポーツ FD」 能動的学修に資する ICT 活用教育		
2015 年 7 月 24 日	スポーツ科目におけるスポーツ吹矢の導入方法 全学教育センター 高村秀史 助教 愛知県スポーツ吹矢協会 講師	12 名
2016 年 1 月 8 日	スポーツ科目の授業実施内容報告 全学教育センター 伊藤僚 助教 社会福祉学部 小林培男 教授, 伊藤照美 講師	13 名
「ICT スキルアップ講座」 能動的学修に資する ICT 活用教育		
2015 年 10 月 26 日 2015 年 10 月 29 日	Google Apps (フォーム, スプレッドシート, ドキュメント) の操作説明と授業での活用法 子ども発達学部 倉掛崇 助教	16 名 9 名
新任教員 FD・SD		
開催時期	開催テーマ	
2015 年 4 月 1 日 - 3 日	新任教員オリエンテーション (キャンパス紹介, 教務オリエンテーション等)	
5 月 7 日	(学生部事項) 学生状況, 配慮を必要とする学生の理解・対応 (入試部事項) 学生募集・入試制度, 入試スケジュール, 推薦系入試・面接にあたって	
5 月 21 日	(学長事項) 本学の危機管理, 日本福祉大学のミッションの継承 (理事長事項) 理事長懇談	
6 月 4 日	(就職部長) 就職状況, キャリア支援 (総合研究機構長) 研究関連状況, 研究支援	
6 月 18 日	教務事項, 本学の教務試験の仕組み, 障害学生への試験配慮	
7 月 16 日	前期研修の振り返り	
10 月 15 日	各キャンパス「安全の日」企画への参加	
12 月 3 日	大学の意思決定の仕組み	
12 月 17 日	大学における「3つのポリシー」, シラバスの作成にあたっての留意事項	
2016 年 2 月 18 日	赴任初年度の振り返り	

教授が地域連携教育の推進に関する基調説明をした後、社会福祉法人 美浜町社会福祉協議会の櫻井悟氏より「美浜町の魅力と地域資源」をテーマに話題提供いただいた。これらの報告では、学生の地域での活動事例が紹介され、これに基づき、学生が地域活動に参加する際の留意点など、参加者を交えたディスカッションを行った。

### 3) FD サロン 地域と大学 「土鍋サロン～DoNabe NET～」

これまで、地域への理解を深め、人、自然、建物、歴史等の地域資源の教育素材としての活用の可能性を見出すために、大学から地域に出かけていく形態の「きょうゆうサロンバスツアー」を実施してきたが、2015年度は地域の方に大学へ来ていただく地域交流型のFDを試みた。

教職員、学生、地域の方（行政、社会福祉協議会、住民）が協働してまちづくりを進める関係性を構築するため、鍋を囲んだ「場」で生まれるつながりが、相互に理解・協力し合えるネットワークに発展する「きっかけづくり」を旨とした、ランチタイムFDで扱ったフィールドワークスタートアップの発展編との位置付けである。他大学学生による鍋を囲んだ相互交流の事例報告や、大規模災害時における防災・減災の視点で学びを深める機会も提供した。鍋を囲んでこれらの話題について意見交換することで、大学と地域との相互理解を深める機会となった。

### 4) スポーツFD 能動的学修に資するICT活用教育

7月には、スポーツ科目担当教員（専任、非常勤）を対象に、ICTを活用したスポーツ授業展開をテーマに2部構成で実施した。第1部では、スポーツ授業用に導入したiPadの基本的な使い方に加え、本学のICTサービスの一つである「Google Apps」（Googleのクラウドサービス）の活用方法・事例を紹介した。第2部では、愛知スポーツ吹矢協会から講師を招いてスポーツ吹矢のルールや授業での導入方法を学んだ後、体育館にて実際にスポーツ吹矢の体験を行った。

1月には、社会福祉学部の小林培男教授より本学の体育授業の総論について、伊藤照美講師より卓球の授業でのグループワークを中心とした授業展開についてご報告いただき、スポーツの授業について意見交換を行った。

### 5) ICTスキルアップ講座 能動的学修に資するICT活用教育

ICTスキルアップ講座は、本学の教育における情報活用の促進や教員の資質向上を目的として開催している。2013年度からは、同年度に導入されたGoogle Appsを授業運営の質向上に活用することをテーマとしている。2014年度に引き続き2015年度も実際の授業における教員の活用場面を想定し、参加者が事前準備から、授業時における学生への指示までを行う演習形式で進めた。Googleフォームを活用したWebアンケートの作成やスプレッドシート上での集計結果（数値、グラフ）の閲覧、ドキュメントを活用した文書の共同編集などについて説明を受けた後、実際にWebアンケートの作成と参加者同士の共有、アンケート回答などを実践した。

#### 1-2. 新任教員FD・SD

新任教員FD・SDは、本学に新たに赴任した専任教員を対象とした学習プログラムである。日本福祉大学スタンダードに関わるGPとして2009年度より開始し、現在は副学長の下で実施している。例年、年6回の構成であったが、赴任初年度から教育・研修の推進に関するより広範な知識の獲得を図るため、2015年度は内容を拡充させて全10回開催した（表1-1参照）。具体的には、専門部（教務部、学生部、入試部、就職部）および総合研究機構に関わるテーマを新設した。

なお、2015年度より本活動への参加を保障するため、これを新任教員の標準業務30時間として組み込むこととした。対象者は2015年度の新任教員19名（業務時間認定対象者）であった。

## 2. 総括

全学的な地域連携教育の推進を意図して、前年度のテーマに掲げた能動的学修（アクティブ・ラーニング）への取り組みを継続しつつ、そこに地域の要素を加えて1年間実施してきた。一部に学生や地域の方も参加するFD活動を取り入れたことで、従来の教職員参加者の会では成し遂げることができなかったFDによる学びの効果をより高めることができた。

地域の方は学生を温かく見守りつつ、社会の先輩として様々な知識を授けてくれたり、時には叱咤激励してくれたりし、共に将来を担う学生を育てる教育者となりうる。こうした地域の“人財”の力を借り、大学との双方

向型の教育を展開することにより、学生は地域の実情に触れ行動し、本学学生が修得すべき「日本福祉大学スタンダード(4つの力)」(見据える力、共感する力、関わる力、伝える力=理解する力)を高めていくことができる。

地域連携教育に教育的効果を見出し、実践する教員は徐々に増加してきているが、更なる浸透と教育の質的向上を図るため、次年度もこれをテーマとしたFDを継続実施していく。

また、2016年度に文部科学省平成28年度「大学教育再生加速プログラム」のテーマ「卒業時における質保証の取組の強化」に本学の事業が採択されたことを受け、学修成果の可視化や内部質保証に関するFDも展開していく。